平成29年2月2日（『サイクルツーリズムと地域振興』に関する日本風景街道団体勉強

日本風景街道の連携による
サイクルツーリズム交流

一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター代表理事
NPO法人日本風景街道コミュニティ理事
原　文　宏

北海道（十勝）と静岡県の交流型ツーリズム

きっかけは….

広域連携による、美しい景観づくり、魅力的な観光空間づくり、個性ある地域づくりを目指す

①「十勝シーニックバイウェイ」と「日本風景街道（静岡）」の交流

～ シーニックバイウェイ北海道 ～

地域に暮らす人が主体となり、企業や行政と手をつなぎ、個性的で活力ある地域づくり、景観づくり、魅力ある観光空間づくりを目指す取り組みです。

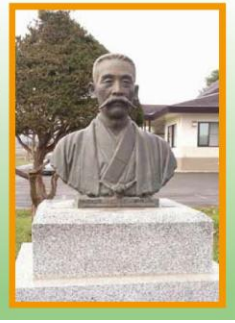
～ 日本風景街道 ～

郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、以って、地域活性化、観光振興に寄与し、これにより、国土文化の再興の一助となることを目的とします。

②「地縁」も

依田 勉三

静岡県で結成された晩成社の副社長。一八八三(明治十六)年に晩成社移民団を率いて北海道十勝地方に入植し、牛馬の飼育改良や各種作物の試作、水田開発などを行ったとともに、教育・交通・宗教など様々な分野に関わり生涯を十勝開拓に捧げる。



二宮 尊親

二宮尊徳(金次郎)の孫。静岡県でも広く知られる二宮尊徳の「報徳」思想―至誠・勤労・分度・推譲―を元に北海道十勝地方豊頃町の開拓に励む。

依田勉三氏は、静岡県の伊豆、松崎町の出身で、北海道開拓のために設立した「晩成社」本社があった。また、二宮尊徳翁の孫で「報徳」の精神をもって豊頃町の開拓にあたった。静岡県も報徳活動が活発であり、掛川市には「大日本報徳社」がある。このように、北海道十勝と静岡県は、北海道開拓期からの地縁がある。

勝海日新聞

自転車で十勝満喫

静岡の参加者ら 最長305キロ走破

豊頃

ハルニレの木の前を出発する自転車ツアー参加者

【豊頃】町内を中心に十勝管内を巡り、襟裳岬をゴールとする自転車ツアー「ゆるゆる十勝自転車の旅」が15～17日に行われた。静岡県と道内の31人が参加。夏の十勝の景観を楽しみながら、最長約305キロのコースを駆け抜けた。

町商工会などによる「こうふく観光プロジェクト検討委員会」（会長・松原敏一町商工会長）が主催。

昨年までの2年間は、同商工会が全国商工会連合会（東京）の補助を受けた「こうふく観光プロジェクト」の一環として、町内で静岡県などから参加者を招いたモニターツアーを開催。補助金は昨年度で終了したが、サイクルツーリズムの振興を目指し、今回から広域のコースを設定して本格的に取り組んだ。

コースは時速25キロ程度で「ガンガン走る人向け」の延長305キロと、同15キロ程度で「ゆるゆる走る人向け」の延長145キロの2種類。ガイドスタッフを含めた参加者は5日、JR帯広駅前を出発して中札内、更別を巡り、豊頃に到着。16日は豊頃から大樹、広尾を走り、17日は広尾から襟裳へ向かった。各地で特産品などを使った食事も提供された。

16日朝は豊頃のハルニレの木の前を出発。静岡県掛川市で自転車店を経営し、3年連続で参加した山崎清一さん（57）は「厳しい雄大な景色が魅力。気候もよいし、りやすい」と話した。

松原会長は「

無農薬のマイしょうゆ

【静別

培研究会（会長）は

を町内の

た。

毎年開

は約30人

うゆ発酵

山県湯浅

油（し

指導で

ない、

③そして、「交流型ツーリズム」へ

「ひと」と「もの」を北海道と静岡の緯度の違いを 活かして交換、さらに「ライフスタイル」の交換へ

ひと：サイクルツーリズム（季節の交換）

もの：お互いの地域に無い産品の交換（例えば、お茶と乳製品）

ライフスタイル：お互いの地域での「ちょっと暮らし」の交換

北海道十勝と静岡県遠州のサイクルツーリズム交流

シーニックバイウェイ北海道（十勝）×日本風景街道（静岡）の連携プロジェクト

2014年スタートで、毎年、相互に開催している。

北海道からの サイクリングツアー

冬：北街道→静岡

冬場、北海道のサイクリストが静岡のガイドライドイベント参加

静岡からの サイクリングツアー

夏：静岡→北海道

本州の暑い夏をさけて、静岡のサイクリストが十勝のガイドライドイベント参加

2014年7月19日(土)朝～20(日)昼　十勝管内発着1泊2日

豊頃町ガイドライドモニターツアー

十勝開拓者と一次産業を活かした観光振興をすすめる豊頃町商工会"こうふく"観光プロジェクトでは、このたび豊頃町エリアを基軸に設定したサイクリングコースのガイドツアーを催行します。豊頃町のみち・ひと・歴史・自然・農・食の体感と交流の機会をご提供し、ご意見を寄せていただくことで今後の持続的なツアー催行をめざします。

■参加定員／30名

■参加費用／18,000円(税込) おとな お一人様

専用バスによる移動費、宿泊滞在費、食事費(朝1 昼2 夕1)、およびガイドおよびサポートカーによるガイドライド費を全て含みます。

<参加上の注意>
・自転車は、基本的にご自身でご用意ください。
・ガイドライドは少雨決行ですが、荒天時等は内容を変更して催行します。

1日目　7/19(土)

食事=昼○夕○
午前:走行距離=50km
午後:走行距離=60km

9：00 宝塚道の駅発⇒シーニックカフェ浜頓
⇒二宮報徳館・二宮神社⇒12：30(昼食)
➡長節沼➡大津漁港➡十勝平野・ハルニレの木
⇒豊頃町アグリサポートセンター着・交流懇親会(夕食)・泊(2～4名1室利用)
※朝・夕のオプションサイクリング有り(希望者のみ)

2日目　7/20(日)

食事=朝○昼○
午前:走行距離=40km
午後:走行距離=20km

9：00 サポートセンター発⇒水運地の丘⇒十勝の多彩な風景
⇒12：00 とよころ物産直売所(昼食)
➡14：00 池田ワイン城立ち寄り ➡ JR池田駅着
※朝のオプションサイクリング有り(希望者のみ)
※スケジュール・ルート等は一部変更になる場合があります。

参加に関するお問い合せ
一般社団法人 北海道観光技術センター　観光研究部
【担当:伊藤信之・谷崎】
札幌市北区北11条西2丁目2番17号　セントラル札幌北ビル
※窓口:(株)日本旅行北海道札幌支店(札幌市中央区南1条西4丁目4F)
Tel：011-738-3363　Fax：011-738-1889
E-mail：toyokoro_bicycle@yahoo.co.jp
E-mail：n-ito@decnet.or.jp

静岡と北海道のサイクリング交流

互産互生（消）から生まれるツーリズム

私個人の理解では、「互産互消」は「地産地消」の対角にある言葉ではなく、お互いに「ないもの」を交換しあう関係づくり全体を意味しており、「互産互生」の方がしっくりきています。

現在、北海道十勝 豊頃町と静岡県掛川市の間で、「互産互生」のツーリズムをサイクリングで試行しています。雪や寒さで、冬はサイクリングを楽しむことのできない北海道のサイクリストが、その間、静岡県掛川市を中心とした遠州を走り、夏は冷涼な北海道十勝地方を静岡のサイクリストが走るサイクルツーリズムです。

つまり、「季節」を交換して「人」が行き交う関係づくりです。南北に長い日本の地理的特性を活用した「互産互生」ツーリズムですが、これを地球規模で実施しているのが、北海道のスキーリゾート「ニセコ」です。南半球が夏の時期、オーストラリアのスキーヤーがニセコに長期滞在してスキーを楽しんでおり、スキー場近辺の居酒屋にはいると自分が外国にきているような錯覚に陥る光景です。

では、北海道のスキーヤーが夏にオーストラリアに行っているでしょうか？結論は、それほど行っていません。そのせいでしょうか、カンタス航空のケアンズ・メルボルンと新千歳空港を結ぶ定期便は平成4年から運休状態になっています。経済合理性の中で、このようなツーリズムが成立することを否定するものではありませんが、もし、定期便が復活したら北海道での機材整備、機内スタッフの入れ替え、機内食の供給等、観光に付随して様々な産業の活性化や雇用が生まれる可能性が広がるということです。

うまく言えないのですが「互産互生」のツーリズムには「金の切れ目が縁の切れ目」のようなツーリズムではなく、「相互」に相手の街づくりや地域づくりまで理解した関係構築によって、ツーリズムがお互いの地域課題を解決していくための「手段」の一つとなりえる可能性を感じています。

今のところ、私たちは1年に1回、相互にサイクルイベントを実施しながら、サイクリング交流の中で、お互いの日常生活や地域の自然・歴史・産業を学びあっている段階です。ただ、私個人は、少し先導的な動きをしており、ロードバイクを掛川市に置いて、冬は、かなりの頻度で掛川市周辺のサイクリストの皆さんと、様々な場所を訪れ、地域の歴史を学んだり、祭りを見たり、地元の居酒屋で飲んだり、食べたりしている中で、長期滞在してみたいとか、何か仕事もしてみたいという気持ちが芽生えました。

「互産互生」ツーリズムには人の意識に変化を促す何かがありそうです。私のような気持ちになる人が増えて、相互に季節交換による長期滞在者が増えたり、災害時のバックアップ用期間移住地などへ発展したり、相互に支店、営業所が開設されるようになることを夢見ています。

原 文宏（はら ふみひろ）

一般社団法人北海道国際交流センター 理事
地域政策研究所長

一般社団法人代表理事として「シーニックバイウェイ北海道」の活動支援や、地域住民が主体となった、沿道景観の保全・改善、豊地型観光やコミュニティビジネスの展開等の活動の支援活動に従事。最近の活動としては、道内各都市の公共交通の再編やモビリティマネジメントの展開、地域住民が主体となった観光・地域づくり（シーニックバイウェイ北海道「フットパス等」に関する調査、研究など。

十勝毎日新聞 （第3種郵便物認可）

サイクリングモニターツアー

食との連携に可能性

豊頃 管内外から愛好者参加

【豊頃】町商工会が取り組む「こうふく観光プロジェクト」の一環で、サイクリングモニターツアーが19、20の両日、町内で行われた。参加した自転車愛好者らは「交通量や信号機が少なく、走りやすい」と道路環境に満足していた。

同プロジェクトでは、サイクルツーリズム（自転車観光）を柱の一つとし、モニターツアーはその可能性を探るのが目的。同プロジェクトで豊頃と交流し、サイクルツーリズムの盛んな静岡県掛川市を中心に同県から16人、札幌、帯広などから6人の計22人が参加した。

緑の畑の中を快走するツアー参加者

話を聞いた。

町内を走行中、タンチョウと出合い、参加者はペダルを止めて見入った。自転車のロードレース専門誌「チクリッシモ」編集長の宮内忍さん（62）は「信号や通過車両が少なく、ストレスなしで気持ちよく自転車を楽しめる」と道路環境の良さを話した。

掛川市では、ガイド付きの自転車ツアーが5年ほど前から行われ、人気を集めている。NPOスローライフ掛川の松浦君裕さん（48）は、「その土地の人でしか知らないことを伝える」とガイドの大切さを強調していた。

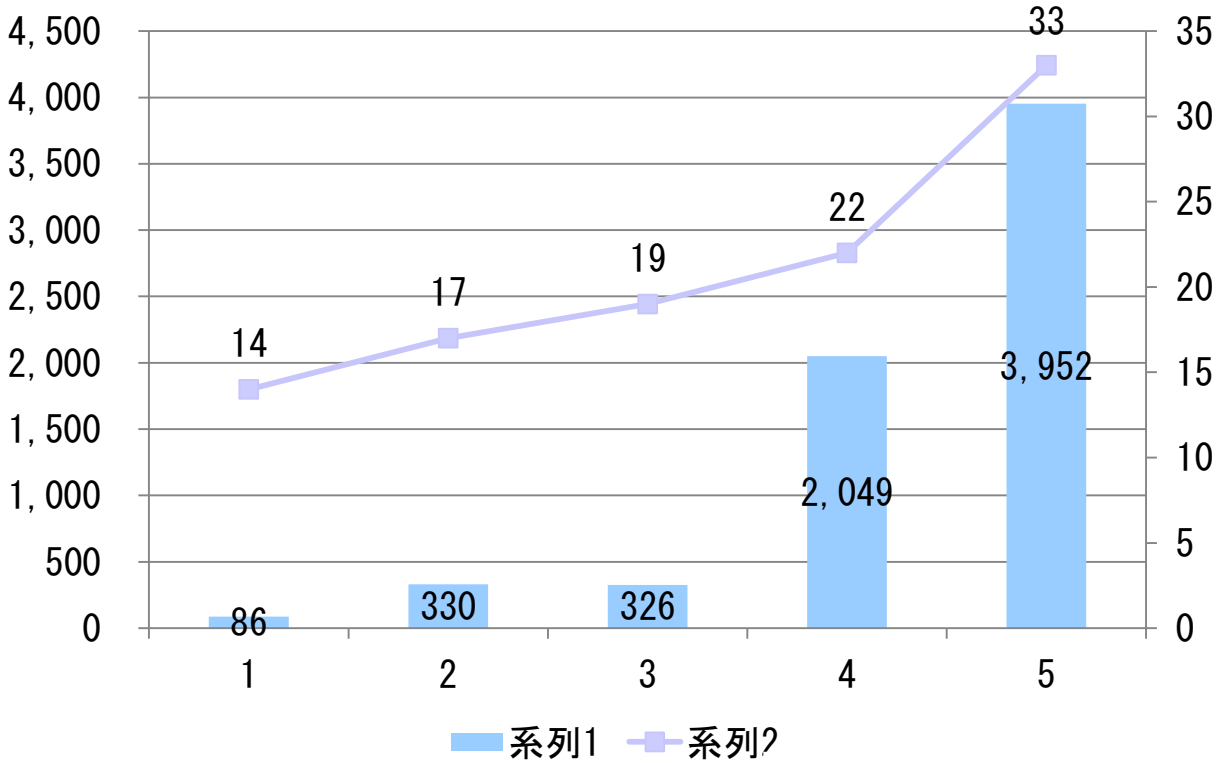
今回のツアーを取りまとめたサイクリングフロンティア北海道（札幌）社長の石塚裕也さん（35）は「ブランド力がある十勝は、食と運動さ

とかちｶﾞｰﾃﾞﾝ・ｽｲｰﾂ・温泉ﾁｹｯﾄ事業

（十勝シーニックバイウェイ　　ﾄｶﾌﾟﾁ雄大空間）

　ルート内の観光施設や見どころを巡ってもらい、ひいては交流人口を増加させる持続可能な経済活動を始める一助として、2010年より、改善を行いながらチケット事業を展開

チケット



波及効果１

地元産品の相互販売

【静岡県掛川市】
H25からの実績や報徳等の繋がりを活かし実施
・これっしか処（掛川市新幹線駅構内）
平成28年1月23日（土）～25日（月）
・We+138Kakegawa（掛川市新幹線駅前）
平成28年1月23日（土）～24日（日）
（農産物販売等の観光農園）
【静岡県磐田市】
・白壁館
平成28年1月23日（土）～25日（月）
※実施は、豊頃町物産販路拡大協議会

We+138Kakegawaでの様子

波及効果３

静岡（掛川市）と十勝（豊頃町）の「ちょっと暮らし」の交換

掛川市から豊頃町へ

豊頃町から掛川市へ

波及効果２
静岡と豊頃・北海道のコラボ商品開発

静岡県掛川市のキウイを雪氷冷熱による貯蔵で高付加価値化

静岡県森町の次郎柿と北海道のパテシエのコラボ商品

波及効果４
合同会社「互産互生機構」（静岡）

合同会社互産互生機構 設立に向けて

合同会社 互産互生機構 開設準備室
コンセプト株式会社 代表取締役 佐藤雄一
株式会社これっしかどころ 代表取締役 中田繁之
株式会社あらまほし 代表取締役 戸田佑也

1．設立の趣意

私たちは、地方都市間を互産互消ネットワークを形成し、都市間の“もの”と“人”の交流を拡大するとともに、地域経済を新しい次元で活性化するため、ローカル to ローカルの価値創造を担い、商流開発と商環境整備の機能を持った地域商社を設立します。

かつての日本は、海に暮らす地域のめぐみと、山に暮らす地域のめぐみを交換し合うことで経済循環が出来上がり、それぞれに無いものを補完し合う仕組みがありました。互いの地で産まれた豊かな食材による「地産地消」を基軸としながら、緯度と気候、地勢や風土の違いから、互いのエリアにないモノ・コトを消費し合い、生かし合う「互産互消」への道すじをつくり出していきます。

食のすべてが揃う地域など希少です。組み合わせ、交流し、豊かな食生活が実現できるならこれもまた素晴らしいことです。お互いのあるもの・ないものを認め合い、求め合い、活かし合う新たな地域間交流を「食＝フードの交換」を皮切りとし、互いの地域の魅力を通して人が行き交う「観光＝ツーリズムの交歓」、さらには互いの気候と風土で人が暮らし合う「生活＝ライフスタイルの交感」へとすすめていきます。

2．設立のための準備活動

（1）北海道、沖縄県、静岡県における販売調査および販売実証実験活動

沖縄県豊見城市瀬長島　ウミカジテラス 47 STORE
店舗、客層の調査および静岡食材の商品試験供給、緑茶試飲を伴う実験販売（4 月）

北海道河東郡音更町　ハピオ木野
店舗、客層の調査および静岡産品の販売プレゼンテーション、交渉活動（5～7 月）

北海道中川郡豊頃町　とよころ物産直売所
静岡産品の販売プレゼンテーション、交渉、コーナー開設にむけた調整活動（5～7 月）

北海道札幌市中央区狸小路　HUG マート
店舗、客層の調査および静岡産品の販売プレゼンテーション、交渉活動（5～7 月）

北海道札幌駅前地下歩行空間　クラシェ
掛川東山茶の試飲を伴う実験販売、スノーキウイの実験販売、マーケットの検証（5 月）

静岡県掛川市駅前　we+138 ストア（8 月）
北海道十勝産品と沖縄県うるま市産品の販売プレゼンテーション、交渉活動（6～8 月）

静岡県磐田市敷地　白壁館
店舗、客層の調査および北海道十勝産品の販売プレゼンテーション、交渉活動（6～8 月）

静岡市葵区安東　安藤米店
店舗、客層の調査および北海道十勝産品の販売プレゼンテーション、交渉活動（6～8 月）

北海道帯広市　北海道ホテル
静岡産品の販売プレゼンテーション、交渉、コーナー開設にむけた調整活動（7～8 月）

（2）設立と運営に関与する人材と組織構成

◎出資および社員就任予定者（五十音順）

國分 裕正　株式会社街制作室 代表取締役（法人出資）
北海道札幌市大通西 6 丁目 10 番 11 号
http://www.machi.co.jp/

坂野 真帆　株式会社そふと研究室 代表取締役（法人出資）
静岡県静岡市葵区安東三丁目 20 番 13 号
http://soft-labo.net/

佐藤 雄一　コンセプト株式会社 代表取締役（法人出資）業務執行者 代表就任予定
静岡県掛川市城下 5 番地の 10
http://www.conception.co.jp/

田中 孝治　地域産業研究所 所長（個人出資）
静岡県掛川市家代 380 番地の 11
http://sbcj-community.org/

爲廣 正彦　株式会社更別企業 代表取締役（法人出資）
北海道河西郡更別村字更別南二線 92 番地 10
http://sarabetsu-kigyo.com/

知久 利克　株式会社知久 代表取締役（法人出資）
静岡県浜松市西区桜台一丁目 2 番 1 号
http://www.chikuya.co.jp/

戸田 佑也　株式会社あらまほし 代表取締役（法人出資）業務執行者
静岡県掛川市領家 965-2
http://aramahoshi.jp/

中田 繁之　株式会社これっしかどころ 代表取締役（法人出資）
静岡県掛川市南 1 丁目 1 番 1 号
http://koresika.jp/

原　文宏　一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター 理事（法人出資）
北海道札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2 番 17 号
http://www.scenicbyway.jp/

平野 正俊　キウイフルーツカントリーJapan 園長（個人出資）
静岡県掛川市上内田 2040
http://www.kiwicountry.jp/

（3）法人設立登記と活動予定

平成 28 年 9 月登記完了、発足、および活動開始
平成 28 年度は掛川市より推進業務を受託予定
受託内容は、マーケティング調査、互産互消の推進、ふるさと納税返礼品づくり等を予定

交流型ツーリズム （サイクルツーリズムの場合）

１．お互いに、行ったり、来たりしあう。

２．地元のサイクリストと一緒に走る。

３．地元のサイクリストが案内する

４．お互いの歴史や日常の生活文化を共有する。

５．地域の食材や、レストラン、食堂を使う。

６．お互いに、他の地域づくり活動への波及を考える。